

平成18年10月3日施設環境防災委員会承認

キャンパス整備計画書(基本案)

筑波技術大学

キャンパス整備計画書

目 次

1 . キャンパス整備計画の考え方	1
(1) 教育・研究体制の概要	1
(a) 経緯・沿革	1
(ア) 設置の趣旨・目的	1
(イ) 大学開設	1
(ウ) 大学の特色	1
(b) 組織	3
(ア) 教育研究組織	3
(イ) センター	4
(ウ) 教員組織	5
(エ) 事務組織	6
(c) 管理運営	7
2 - 1 . キャンパスの概要 (天久保地区)	8
(a) 設置の位置及び周辺状況	8
(ア) 位 置	8
(イ) 気 象	8
(ウ) 地勢・地質	8
(エ) 法的規制	8
(オ) 道 路	8
(カ) 交 通	8
(b) 計画のコンセプト	9
(c) 施設の概要	9
(d) 土地利用計画 , 配置計画の基本方針	9
(e) 建築計画	10
(f) 環境整備計画	11
(g) エネルギー供給処理計画	11
2 - 2 . キャンパスの概要 (春日地区)	13
(a) 設置の位置及び周辺状況	13
(ア) 位 置	13
(イ) 気 象	13
(ウ) 地勢・地質	13
(エ) 法的規制	13
(オ) 道 路	13
(カ) 交 通	13
(b) 計画のコンセプト	14

(c) 施設の概要	14
(d) 土地利用計画，配置計画の基本方針	14
(e) 建築計画	15
(f) 環境整備計画	16
(g) エネルギー供給処理計画	16
3. 将来構想	18

別 紙

施設現況配置図（天久保地区）

施設現況配置図（春日地区）

ゾーニング図（天久保地区）

ゾーニング図（春日地区）

はじめに

本学は、平成17年10月1日に開学しましたが、そのキャンパス及び施設は平成17年9月31日に閉学となった筑波技術短期大学のものであり、キャンパスの施設も17年が経ち、施設の老朽化や機能低下が進行し深刻な状況になりつつあります。

大学としての教育研究等に対応した施設整備の検討が必要である。（学生寄宿舍の整備計画、大学院の設置に伴う施設整備の計画等含め。）

以上のことについて、まとめるものとする。

計画の立案は、以下の基本的な考え方に沿って行うものとする。

大学の建学の理念，将来像，将来計画を踏まえた計画とする。

社会の期待や要請に応じて高度化・多様化する教育・研究活動に常に弾力的に対応できる計画とする。

大学のコンセプトが見え，環境に配慮した再整備を図るものとする。

その中で，本学の特徴がよく表現でき，全体の調和の中で，各組織それぞれの「顔」も見えるような計画とする。

聴覚・視覚障害に基づく配慮はもとより，車椅子使用等のバリアフリー計画を含め，できるだけ多くの人々に満足のいく，そして愛着のもてるキャンパス造りを計画する。

既存の施設，環境を最大限に活用する。

検討体制

キャンパスの整備計画をする上で，次の5つのワーキンググループを設け，専門的に検討する。なお，ワーキンググループは必要に応じ設置・改編することが出来る。

マスタープランWG

全体計画のとりまとめ

建物・設備WG

将来整備すべき建物の建設計画

既存建物・基幹設備の点検・評価及び改善計画の立案

サインWG

キャンパス内の案内・表示等の点検・評価及び改善計画の立案

バリアフリー対策WG

既存バリアフリー設備の点検・評価及び改善計画の立案

防犯対策WG

キャンパス内の防犯対策整備の立案

1. キャンパス整備計画の考え方

(1) 教育・研究体制の概要

(a) 経緯・沿革

(ア) 設置の趣旨・目的

近年の目覚ましい技術革新は、科学技術・医療技術の内容を高度化、専門化し、専門領域を細分化するなど、それぞれの職域において高度の専門技術者、研究者を必要とするようになってきた。

また、複合的要因により惹起された環境、資源、都市、健康などの今日的な課題解決に当たるためには、幅広い教養、高い倫理観、実践的な語学能力、情報活用能力を育成するとともに、専門教育の基礎・基本を有し、専門領域を越えた総合的な視野の下に的確な判断能力と応用能力を持つことが要求されている。

一方、近年の医療技術の進歩と高齢化の進展に伴い、障害がありながら社会生活を送る者の数は急速に増加しており、障害者が一定の配慮の下に、社会に積極的に参加して活躍できる社会の実現が求められている。さらに、障害者の大学進学希望者が顕著化し、障害者のための大学設置による効果的な高等教育の実施と、一般の大学等に進学した障害学生への対応が求められるようになってきた。

こうした中で、この筑波技術大学は、

我が国における聴覚・視覚障害者の中核的な高等教育・研究機関として
聴覚・視覚障害に適応した教育研究を実施する先導的、先端的、実験的な教育・研究機関として

国内外にわたる両障害（者）に関する情報発信の拠点として

障害者が自立し、社会参画・貢献できる社会システムづくりの一端を担い、豊かな社会を実現するために筑波技術大学を設置するものである。

(イ) 大学開設

平成17年10月 1日 国立大学法人筑波技術大学 開学

（昭和62年10月 1日 筑波技術短期大学 開学
平成16年 4月 1日 国立大学法人筑波技術短期大学へ移行
平成17年 9月30日 国立大学法人筑波技術短期大学 閉学）

(ウ) 大学の特色

修業年限

一般教養・専門基礎教育の充実、資格取得の年限は4年となっている。

教育方針

自ら社会に適応しようとする自主性と柔軟性を育て、各種コミュニケーション能力を養うとともに、科学技術の進歩に対応し得る基礎学力の向上、専門基礎教育の充実及び専門的技術の習得を図る。

入学者選抜方法等

入学者は、聾学校高等部又は盲学校高等部を卒業した者のほか、これらの者と同程度の学力と障害をもつ者とする。

入学者選抜方法は、学力検査及び面接等による方法と、聾学校長、盲学校長及び高等学校長の推薦による方法の二つの方法を採用する。また、社会人特別選抜も行っている。

学生生活

社会との交流を重視し、他大学の学生及び地域住民との交流を推進しており、学生寄宿舍の整備も行っている。

公開機能

障害を持つ職業人の再教育及び障害者の教育、福祉等関係者の研修のために、各種の公開講座及び講習会を開催している。また、インターネットにホームページを設け、広く学外に対し、本学の情報を公開している。

さらに、教員の研究の一部を毎年テクノレポートとしてまとめ、聾学校及び盲学校に提供している。

(b) 組 織

(ア) 教育研究組織

学部・学科については、産業技術学部 2 学科，保健科学部 2 学科を置き，入学定員は 90 人とする。

	学 科	入学定員	総定員	学 科 の 目 的
産 業 技 術 学 部	産業技術学科	人 35	人 140	聴覚障害者自らの情報授受障害の克服を通じて幅広い教養を身につけるとともに，専門知識と技術の習得に必要な情報処理教育，専門基礎教育を充実し，社会に参加・貢献できる聴覚障害者の育成を図る。
	総合デザイン学科	15	60	生活環境を総合的に考え，環境・モノ・情報を中心としたデザインに関する基礎的知識と専門技術を身につけ，ユニバーサルデザインやエコロジーデザインなどへも視点を広げ，豊かな感性と創造的表現力を持ったデザイン関連の職業人として社会的自立ができるよう育成を図る。
保 健 科 学 部	保健学科	30	120	自らの情報授受障害を克服するための情報リテラシー等の補償能力を高め，幅広い教養を身に付けて豊かな人間性を養い，更には鍼灸学，理学療法学，健康福祉学の学問域を深めることにより，医療に関する基礎知識や情報化の進展に柔軟に対応できる専門医療技術者，健康に関する素養を備えた福祉専門家の育成を図る。
	情報システム学科	10	40	視覚障害補償と情報技術を融合した教育を目指し，学生の志向と適性にあわせて障害補償を準備し，その技術の習得を図るとともにコンピュータの知識と技術，その応用能力及び幅広い教養を身につけた技術者の育成を図る。
計	4 学 科	90人	360人	

(イ) センター
次の施設を置く

センターの名称	目的及び概要
障害者高等教育研究 支援センター	<p>障害者高等教育研究支援センターは障害者基礎教育研究部と障害者支援研究部を持ち、教養教育の編成と実践を行うとともに、障害補償システムの研究・開発及び障害者の能力開発に関する研究を行う。また、学内支援にとどまらず、他大学に学ぶ聴覚及び視覚に障害を持つ学生に対する支援にも取り組んでいる。</p>
附属東西医学統合医療 センター	<p>科学的に質の高い診療・鍼灸治療ならびに教育研究を行い、地域医療に貢献することを目的としている。</p> <p>医療センターは、東西医学の統合的診療を実践する日本でも数少ない医療施設である。診療科目については、内科・小児科、神経内科、整形外科、精神科、漢方内科、心療内科、及び内科・放射線科がある。</p>
情報処理通信センター	<p>本学の情報処理システム及び通信ネットワーク等の円滑な運用を図ることを目的とした施設である。</p> <p>社会的に大きな問題となっているコンピュータネットワークへの不正侵入やウィルス感染への対応等適切な情報セキュリティの維持管理業務を行っている。</p>
保健管理センター	<p>本学の教職員・学生の健康に関する支援、助言をすることを目的とした施設である。</p> <p>定期健康診断、日常の学校生活における病気や怪我の対応の他に、カウンセリング業務を行っている。</p>

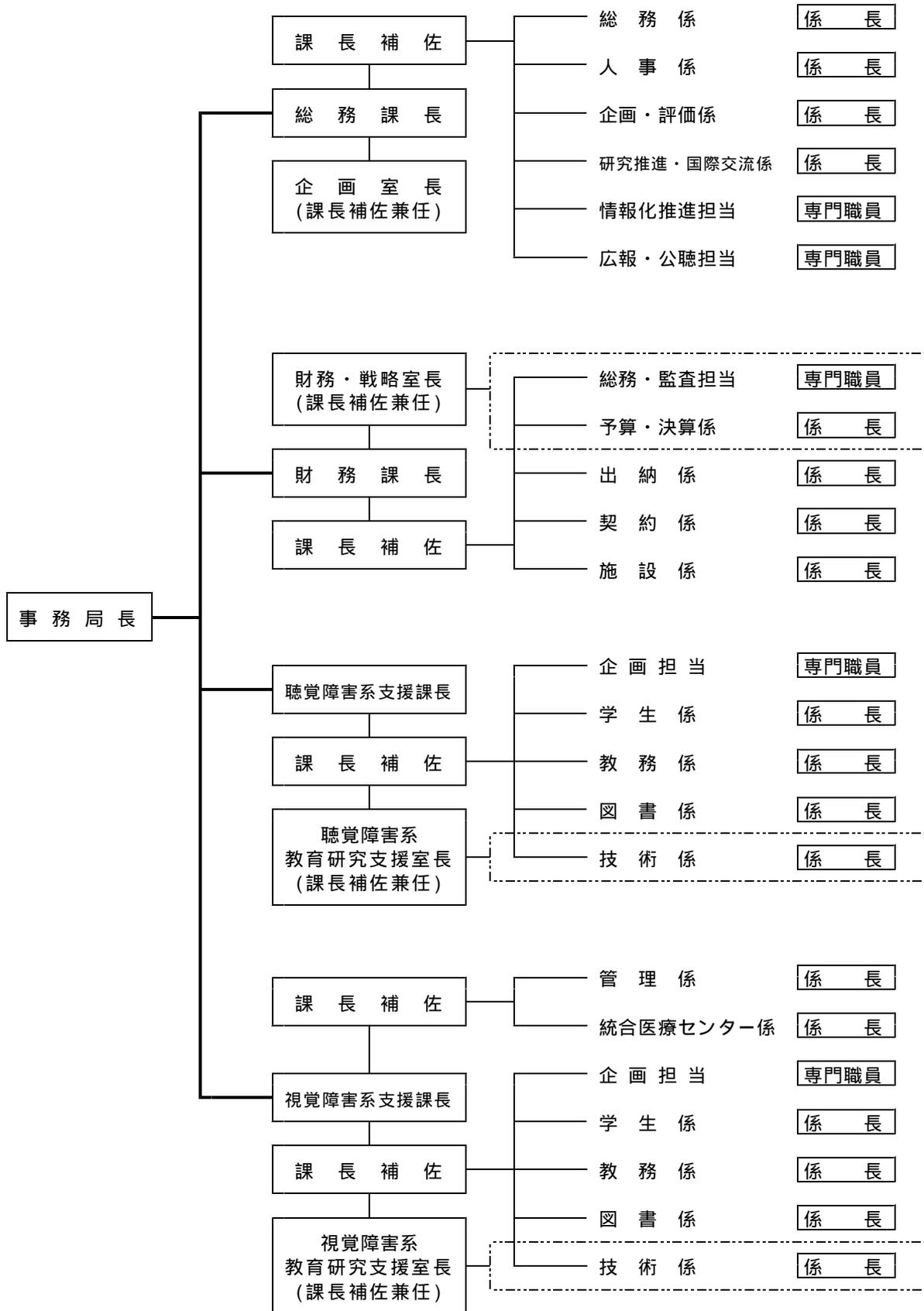
(ウ)教員組織

区 分			職 種 別 内 訳				
			教 授	助教授	講 師	助 手	計
天 久 保 地 区	産業技術学部	産業情報学科	1 5	1 2	2	2	3 1
		総合デザイン学科	6	6	0	1	1 3
	障害者高等教育研究支援センター		8	4	0	2	1 4
	保健管理センター		1	0	0	0	1
	小 計		3 0	2 2	2	5	5 9
春 日 地 区	保健科学部	保健 鍼灸学専攻	1 0	3	0	3	1 6
		学科 理学療法学専攻	7	1	0	1	9
		情報システム学科	7	5	0	1	1 3
	障害者高等教育研究支援センター		7	5	0	1	1 3
	附属東西医学統合医療センター		1	1	0	1	3
	保健管理センター		1	0	0	0	1
	小 計		3 3	1 5	0	7	5 5
合 計		6 3	3 7	2	1 2	1 1 4	

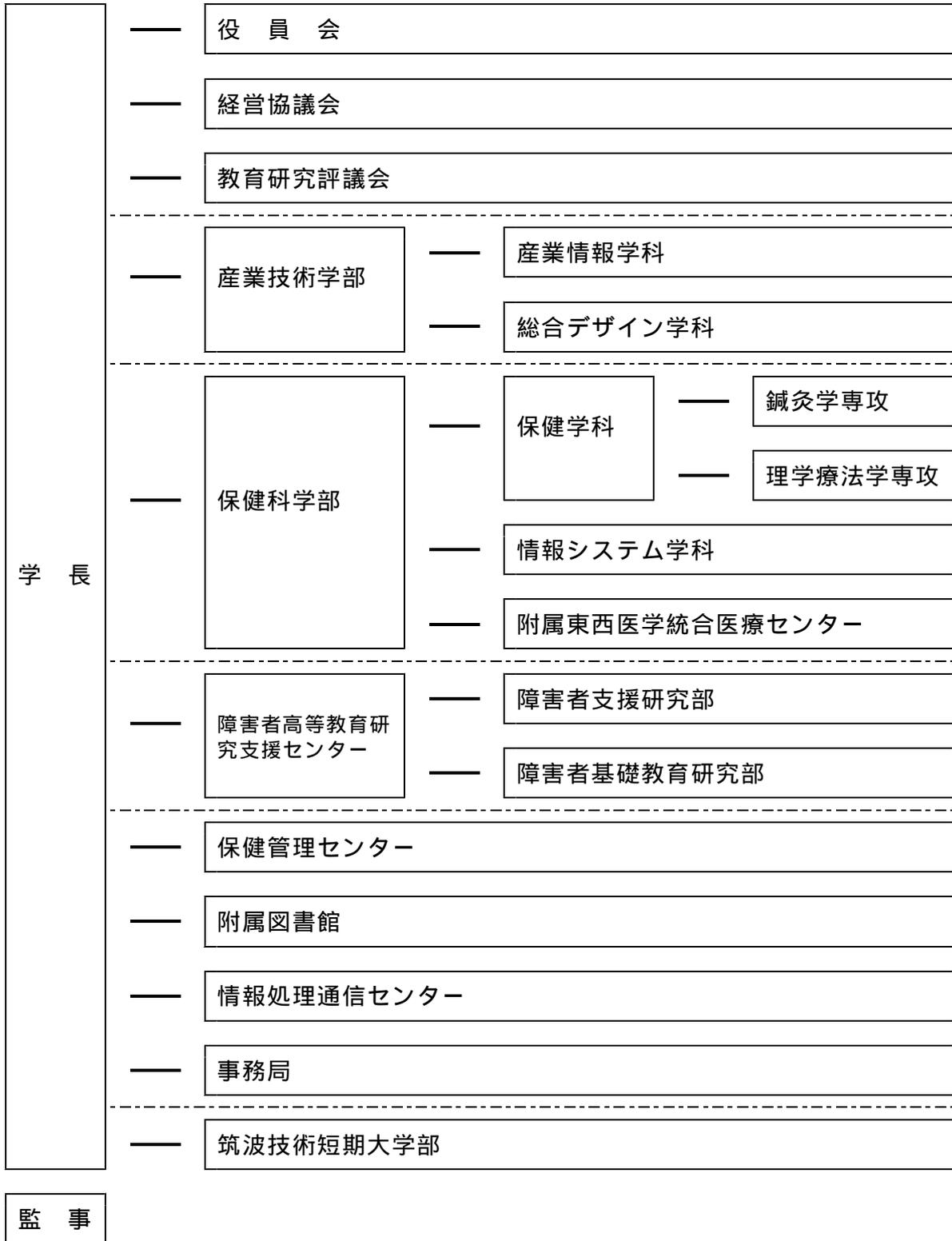
学長，理事各 1 名

(I) 事務組織

事務機構図



(c) 管理運営組織図



教職員等は，役員 6 人，教員 114 人及び事務局職員 77 人で構成する。
役員は，学長，理事，理事（非常勤）2 人，監事（非常勤）2 人の計 6 人となる。

2 - 1 . キャンパスの概要 (天久保地区)

(a) 施設の位置及び周辺状況

(ア) 位置

東京より東北方向約60kmにある筑波研究学園都市内で、国立科学博物館・筑波実験植物園と隣接した位置にある。そのすぐ北には標高約880mの筑波山、東方約8kmに霞ヶ浦、さらに、その東方約80kmには鹿島臨海工業地域、又、東南方向約40kmには成田国際空港がある。

(イ) 気象

敷地付近の気候は、東京と同じ太平洋岸型の気候で、茨城県内の他の地域と比較すると、冬はやや涼しく、夏はやや暖かい。風速は海岸から離れた平坦な地形のため、年間を通じて安定している。

(ウ) 地勢・地質

本敷地は、茨城県南部に位置する稲敷台地と呼ばれる洪積台地上に位置している。稲敷台地は、千葉県北部に連続する常総台地の一部で、台地内には利根川、桜川、花室川の河川やその支流が多く流れ、川筋に沖積低地部が発達している。

地質としては、第四紀洪積世の海成堆積層である。

成田層(細砂・シルト・砂礫)を基盤に、上位に河成堆積層である竜ヶ崎層(細砂・シルト・砂礫)、火山灰の水中堆積物である常総粘土層、風成火山灰である関東ローム層が堆積している。

(I) 法的規制

建築基準法

- ・用途地域・・・第2種住居専用地域(建ぺい率60%、容積率200%)
- ・道路斜線・・・法第56条第1項が適用される。
- ・北側斜線・・・法第56条第1項が適用される。
- ・日影規制・・・法第56条第2項が適用される。

都市計画法

- ・都市施設・・・法第11条(研究学園都市は一団地の官公庁施設として定められている。)

筑波研究学園都市一団地の官公庁施設の「建設計画基準」

- ・建築化区域・・・敷地面積の60%以下
- ・屋外施設区域・・・敷地面積の30%以下
- ・緑地・・・敷地面積の30%以下
- ・建ぺい率・・・敷地面積の30%以下
- ・容積率・・・敷地面積の100%以下

(オ) 道路

敷地の西側は直接大通り(学園東大通り 幅員34m)と面しておらず、約25m幅の民有地を挟んで幅員6mの道路に接している。又、東南側にも幅員6mの道路があり三方で道路に接している。

(カ) 交通

つくばエクスプレス「つくば駅」からバスで約15分、常磐線「土浦駅」からバスで約40分、「荒川沖駅」からバスで約40分、あるいは東京駅八重洲南口からバスを乗り継ぎ約1時間20分。

(b) 計画のコンセプト

本大学の設置目的にふさわしく，その機能を十分発揮するとともに，活動が円滑に行えるキャンパスとするため，以下の4つの要素を考える。

- ・安全性の十分な確保：（Safety）
- ・開放的で明るい雰囲気：（Open）
- ・バリアフリー環境の確保（Barrier Free）
- ・コミュニケーションの重視：（High-Touch）

その4つの要素を合わせたS O F Tを計画のコンセプトとし，設計に反映させている。

(c) 施設の概要

施設概要

敷地面積：44,087m²

施設規模：16,241m²

施設内容：管理棟 1,169m²，メディアセンター 2,185m²，校舎棟 6,403m²，特殊実験棟 513m²，大学会館 960m²，体育館 1,077m²，学生寄宿舍 2,898m²，共用棟 477m²，プール附属家 143m²，非常勤講師宿泊施設 416m²

機能関連

大学の本来の機能である教育・研究機能を中心とした校舎棟・特殊実験棟，支援センター機能（情報の発信や教育方法の開発等）としての図書館・メディアセンター，管理・運営機能としての管理棟・保健管理センター，生活機能としての大学会館・学生寄宿舍等が有機的に関連付けられ，全体として十分にその機能が活かせ，各施設での活動が円滑に行えるよう計画されている。

(d) 土地利用計画，配置計画の基本方針

ゾーニング

敷地周辺状況，形状等を十分配慮し，機能関連・動線のつながりに配慮してアプローチの位置，ゾーンが計画されている。

- ・メインアプローチ：主要幹線道路である大通りからのアプローチをメインと考え，周辺環境が良好で大学の顔としてふさわしい敷地南側にある。
- ・サブアプローチ：近隣への外出，サービスの利便性を考慮し，敷地西側中央及び北東の山鳩公園側の2ヶ所。
- ・施設ゾーン：教育・研究施設，管理・運営施設及び福利厚生施設を整備している。
それら施設は，メインアプローチに面し，親しみやすく開かれた大学のイメージを与えることに留意し，南側ゾーンに配置してある。
（校舎棟，管理棟，メディアセンター，特殊実験棟，大学会館）
- ・居住ゾーン：既存緑地を活用し，良好な住環境を形成できる北側ゾーンに配置してある。
（学生寄宿舍A～D，共用棟，非常勤講師宿泊施設）
- ・運動ゾーン：良好な日照が確保でき，外部からの利用もしやすく，近隣

に対する影響の最も少ない東側ゾーンに配置されている。
(体育館，テニスコート，プール，グラウンド)

配置計画

- ・校舎棟，特殊実験棟
本大学の中心施設としてふさわしく他の施設への移動がしやすい位置となっている。また，特殊実験棟は校舎棟と一体として機能する位置となっている。
 - ・管理棟
全体の管理運営がしやすく，職員，外来者のアクセスを考慮して，メインアプローチに近い位置となっている。
 - ・メディアセンター
教育・研究をバックアップし，関係機関との情報交流の核としても，機能しやすい位置となっている。
 - ・大学会館
学生が集まりやすく，生活の中心施設として，校舎棟，学生寄宿舍双方から利用しやすい位置となっている。
 - ・体育館
車椅子利用者にも配慮されたペDESTリアンウェイよりのアプローチとし，グラウンドに隣接させて運動ゾーンを構成している。
 - ・学生寄宿舍
既存緑地の利用等により，敷地の中で落ち着いた雰囲気のある位置となっている。
 - ・非常勤講師宿泊施設
校舎棟，大学会館等への動線に配慮し，又，既存緑地を利用して学生寄宿舍と雰囲気を変えながらも，居住ゾーンとしての統一にも留意した構成としている。
- 交通計画
- ・基本的に人と車の動線は交差しないものとし，防災対策として緊急車輛のルートには十分配慮している。
 - ・駐車場は，教職員，外来者用として101台分相当のスペースを確保している。

(e) 建築計画

空間計画

- ・回廊型の開放的な廊下とし，空間が把握しやすい構成となっている。
- ・変化に富み，コミュニケーションも自然と取りやすくなる主動線空間で各棟を結んでいる。
- ・交流，集い，インフォメーション等に多目的に利用できる半屋外のアトリウム空間をつくり，その吹き抜けの上部には，シンボルとなるガラスのピラミッド屋根を設けてある。

各棟の設計方針

- ・校舎棟：フロア間での縦移動の少ないゾーン構成になっており，バルコニーと屋外階段を設けて安全性を高めている。
- ・管理棟：メインアプローチに面することから，セットバック，曲面の使用等により，やさしく親しみやすい雰囲気をもたせている。

- ・メディアセンター：待合いや集まりの場となるホールをはさんで，管理棟と一体となる構成となっている。
- ・特殊実験棟：校舎棟と一体となる構成となっている。
- ・大学会館：生活の中心施設となることから，明るく楽しい雰囲気となっている。
- ・体育館：ペDESTリアンウェイからのアプローチを含め，車椅子利用者でも利用しやすいようになっている。
- ・学生寄宿舍：5～6人が1グループとなる，ユニットプランで構成し，ラウンジ等のコミュニケーションの場も設けてある。
- ・非常勤講師宿泊施設：居住ゾーンにある施設として，学生寄宿舍と調和のとれた計画がなされている。

(f) 環境整備計画

緑地，植栽は，保全，防風，修景等による良好な環境確保のほか，レクリエーションの場づくりとして欠かせないもので，その機能を明確に把握している。大学の顔，交流の場としてのメインアプローチ広場，休息や語らいの場としてのコミュニケーション広場が，それぞれの空間に適した雰囲気となっている。

(g) エネルギー供給処理計画

基本方針

聴覚障害者のための大学であることを念頭におき，大学の円滑な管理運営，快適な教育研究環境を維持するためのシステムの統括化を図る。

- ・防災について特に配慮し，特に災害時の障害者の避難誘導に対して，十分対応できる設備とする。
- ・省エネルギーシステムの導入を図り，かつ安全性の高い設備とする。
- ・各種使用機器は，信頼性の高いものを選定し，運転制御及び維持管理の簡素化を図る。
- ・中央監視システムにより，管理運営上省力化を図るとともに，防災，防犯面でも安全性の高い施設とする。
- ・将来対応がしやすいフレキシビリティの高い計画とする。

電気設備

東京電力の架空線より高圧1回線を地中管路にて，1階のメディアセンター内電気室へ引き込む。（高圧3線，3W，6.6KV，50Hz）電気室より各棟へは，共同溝，床下ピット等にケーブルラックを布設し，ケーブル配線で低圧配電となっている。

電話設備

敷地西側公道沿いのNTTの既設架空電話線より地中埋設管路を経て，管理棟内の電話交換機室へ局線を引き込み，デジタル電子交換機（PBX）の中継によりダイヤルイン方式となっている。（280/360回線）

給水設備

上水道は外周西側道路内本管より引き込む。プール施設を除き受水槽に導き，屋上の高置水槽へ揚水後，各棟へ重力方式にて供給を行っている。

排水設備

建物内は汚水，雑排水，実験洗浄排水，雨水の4系統分流式とし，屋外は生活排水，雨水の2系統分流式とするが，実験洗浄排水は，中和処理後生活

排水系統に合流させる。

ガス設備

敷地外周西側道路の埋設されている筑波学園ガス(株)低圧ガス管80（都市ガス13A，11,000kcal/m³）により引き込み，各棟へ供給している。

空気調和設備

冷暖房を実施する部分は，空冷ヒートポンプ方式個別空調にて対応し，暖房のみを行う部分は温水暖房方式で，熱源は運転に際し資格を要しない重油焚き真空式温水ボイラー（全自動運転可能型）とし，各棟へ供給している。

ただし，学生寄宿舍は，途中の配管のロスを考慮し，暖房給湯兼用ボイラー（全自動運転型）を別に設置し，供給している。

防災設備

防災設備は関係法規に基づき整備しているが，消防庁から昭和62年9月1日付「社会福祉施設等における防火安全対策について（通知）」が出されていることを踏まえ，細部にわたりきめ細かい防災対策を行い，防災センター内に主受信機を設置し，中央監視設備と連動して監視・制御を行う。

防犯設備

学生寄宿舍のユニットの玄関ドアのオートロック，宿舍外部に監視モニターの設置，外灯の増設といった防犯対策を図っている。

情報システム

情報システムとしては，幹線部（各棟のフロアスイッチまで）の伝送媒体は光ファイバーケーブルで，支線部（フロアスイッチから端末の情報コンセントまで）については，100MbpsのUTPケーブルで整備している。

また，大学会館，学生寄宿舍及び共用棟は，ネットワーク認証が必要な利用形態をとっている。

廃棄物処理

学内から発生する多種多様な廃棄物を適切に処理し，キャンパス全体として処理システムを検討する。廃棄物の適切な処理を行うため，市の条例や関係法令等を遵守するとともに，必要に応じ，安全，健康，資源の有効利用の観点から所要の設備を設けることとする。

2 - 2 . キャンパスの概要 (春日地区)

(a) 施設の位置及び周辺状況

(ア) 位置

東京より東北方向約60kmにある筑波研究学園都市内で、国立科学博物館・筑波実験植物園と隣接した位置にある。そのすぐ北には標高約880mの筑波山、東方約8kmに霞ヶ浦、さらに、その東方約80kmには鹿島臨海工業地域、又、東南方向約40kmには成田国際空港がある。

(イ) 気象

敷地付近の気候は、東京と同じ太平洋岸型の気候で、茨城県内の他の地域と比較すると、冬はやや涼しく、夏はやや暖かい。風速は海岸から離れ平坦な地形のため、年間を通じて安定している。

(ウ) 地勢・地質

本敷地は、茨城県南部に位置する稲敷台地と呼ばれる洪積台地上に位置している。稲敷台地は、千葉県北部に連続する常総台地の一部で、台地内には利根川、桜川、花室川の河川やその支流が多く流れ、川筋に沖積低地部が発達している。

地質としては、第四紀洪積世の海成堆積層である。

成田層(細砂・シルト・砂礫)を基盤に、上位に河成堆積層である竜ヶ崎層(細砂・シルト・砂礫)、火山灰の水中堆積物である常総粘土層、風成火山灰である関東ローム層が堆積している。

(I) 法的規制

建築基準法

- ・用途地域・・・第2種住居専用地域(建ぺい率60%、容積率200%)
- ・道路斜線・・・法第56条第1項が適用される。
- ・北側斜線・・・法第56条第1項が適用される。
- ・日影規制・・・法第56条第2項が適用される。

都市計画法

- ・都市施設・・・法第11条(研究学園都市は一団地の官公庁施設として定められている。)

筑波研究学園都市一団地の官公庁施設の「建設計画基準」

- ・建築化区域・・・敷地面積の60%以下
- ・屋外施設区域・・・敷地面積の30%以下
- ・緑地・・・敷地面積の30%以下
- ・建ぺい率・・・敷地面積の30%以下
- ・容積率・・・敷地面積の100%以下

(オ) 道路

敷地の西側約190mに大通り(学園西大通り 幅員25m)がある。敷地の一部を除き四方が6m~13mの道路に接しており、南側には道路を境に筑波大学が隣接している。

(カ) 交通

つくばエクスプレス「つくば駅」からバスで約7分、常磐線「土浦駅」からバスで約30分、「荒川沖駅」からバスで30分、あるいは東京駅八重洲南口からバスを乗り継ぎ約1時間12分。

(b) 計画のコンセプト

本大学の設置目的にふさわしく，その機能を十分発揮するとともに，活動が円滑に行えるキャンパスとするため，以下の4つの要素を考える。

- ・安全性の十分な確保：（Safety）
- ・開放的で明るい雰囲気：（Open）
- ・バリアフリー環境の確保（Barrier Free）
- ・コミュニケーションの重視：（High-Touch）

その4つの要素を合わせたS O F Tを計画のコンセプトとし，設計に反映させている。

(c) 施設の概要

施設概要

敷地面積：39,614㎡

施設規模：15,019㎡

施設内容：校舎棟 5,627㎡，エネルギーセンター 540㎡，附属東西医学統合医療センター 1,993㎡，教育方法開発センター 1,672㎡，大学会館 1,074㎡，学生寄宿舍 2,852㎡，体育館 677㎡，プール棟 644㎡

機能関連

大学の本来の機能である教育・研究機能を中心とした校舎棟，教育・研究機能と強いつながりを持つ診療・実習機能としての附属東西医学統合医療センター，支援センター機能（情報の発信や教育方法の開発等）としての図書館・障害者高等教育研究支援センター，管理・運営機能としての支援課，保健管理センター，生活機能としての大学会館・学生寄宿舍等が有機的に関連付けられ，全体として十分にその機能が活かせ，各施設での活動が円滑に行えるよう計画されている。

(d) 土地利用計画，配置計画の基本方針

ゾーニング

敷地周辺状況，形状等を十分配慮し，機能関連・動線のつながりに配慮してアプローチの位置，ゾーンが計画されている。

- ・メインアプローチ：主要幹線道路である大通りからのアプローチをメインと考え，周辺環境が良好で大学の顔としてふさわしい敷地南側にある。
- ・サブアプローチ：バス利用を考慮し敷地北東側（筑波大学内ループ幹線の平砂学生寄宿舍バス停側）としている。
- ・施設ゾーン：教育・研究施設，管理・運営施設及び福利厚生施設を整備している。
メインアプローチに面し，アカデミックで開かれた大学のイメージを与えることに留意し，南側ゾーンに配置してある。（校舎棟，附属東西医学統合医療センター，教育方法開発センター，大学会館，エネルギーセンター）
- ・居住ゾーン：施設，運動の両ゾーンとの連絡がよく，既存緑地により，落ち着いた環境を確保できる北側ゾーンに配置してある。（学生寄宿舍A～C，共用棟）

- ・運動ゾーン：良好な日照が確保でき，外部からの利用もしやすく，近隣に対する影響の最も少ない東側ゾーンに配置してある。
(体育館，プール棟，グラウンド)

配置計画

- ・校舎棟
本大学の中心施設としてふさわしく，他の施設への移動がしやすい位置となっている。
- ・附属東西医学統合医療センター
医療機関として，外来患者にとってわかりやすく，駐車場を利用しやすい位置とし，又，実習機能も有するため，校舎棟との関連も十分考慮した位置となっている。
- ・教育方法開発センター
教育・研究をバックアップし，関係機関との情報交流の核としても機能しやすい位置となっている。
- ・大学会館
学生が集まりやすく，生活の中心施設として校舎棟，学生寄宿舍双方から利用しやすい位置にある。
- ・体育館，プール棟
体育館隣は運動に有効な屋内プールとし，水泳可能期間が長くなるよう計画されている。
- ・学生寄宿舍
敷地の中で落ち着いた雰囲気のある位置となっている。

交通計画

- ・基本的に人と車の動線は交差しないものとし，防災対策として緊急車輛のルートには十分配慮している。
- ・駐車場は，教職員，外来者，外来患者用として85台分相当のスペースを確保している。

(e) 建築計画

空間計画

- ・主動線となる廊下は，直角交差の回廊型を原則とし，空間が把握しやすい計画となっている。
- ・主要動線上で溜まりとなる場にラウンジを設け，コミュニケーション，避難の拠点としている。
- ・自然採光を十分取り入れるため，ライトコア（光の庭）を設け明るく軽快な雰囲気となっている。

各棟の設計方針

- ・校舎棟：学科間で縦移動の少ないフロア構成とし，ほとんどの居室がバルコニーへの避難が可能な安全性の高い計画になっている。
- ・附属東西医学統合：わかりやすいアプローチと落ち着きのある中庭をもち医療センター，校舎棟と一体となる構成となっている。
- ・教育方法開発：メインアプローチに面していることから，明るい空間づくりと機能を表現したファサードとなっている。

- ・大 学 会 館：明るく楽しい雰囲気外部にも反映されるよう，開放的な空間構成となっている。
- ・体 育 館：車道から完全に分離された安全なアプローチと，視覚障害に配慮した床面を持つアリーナを設けてある。
- ・プ ー ル 棟：採光を十分取り入れることにより，水泳の利用期間が長くなるよう計画している。
- ・学生寄宿舍：4人又は，6人が1グループとなる，ユニットプランで構成し，共用棟ラウンジ等のコミュニケーションの場も設けてある。

(f) 環境整備計画

緑地，植栽は，保全，防風，修景等による良好な環境確保のほか，レクリエーションの場づくりとして欠かせないもので，その機能を明確に把握し計画され，屋外広場は直角交差を原則とした主動線で構成され，その動線上に配置された溜まりのスペースをもつ空間構成となっている。

(g) エネルギー供給処理計画

基本方針

視覚障害者のための大学であることを念頭におき，大学の円滑な管理運営，快適な教育研究環境を維持するためのシステムの統括化を図る。

- ・防災について特に配慮し，特に災害時の障害者の避難誘導に対して，十分対応できる設備とする。
- ・省エネルギーシステムの導入を図り，かつ安全性の高い設備とする。
- ・各種使用機器は，信頼性の高いものを選定し，運転制御及び維持管理の簡素化を図る。
- ・中央監視システムにより，管理運営上省力化を図るとともに，防災，防犯面でも安全性の高い施設とする。
- ・将来対応がしやすいフレキシビリティの高い計画とする。

電気設備

東京電力の架空線より高圧1回線を地中管路にて，エネルギーセンター内電気室へ引き込む。(高圧3φ，3W，6.6KV，50Hz)電気室より各棟へは，共同溝，床下ピット等にケーブルラックを布設し，ケーブル配線で低圧配電となっている。

電話設備

敷地西側公道沿いのN T Tの既設架空電話線より地中埋設管路を経て，校舍棟内の電話交換機室へ局線を引き込み，デジタル電子交換機(P B X)の中継によりダイヤルイン方式となっている。(256/400回線)

給水設備

上水道は外周西側道路内本管より引き込む。プール施設を除き受水槽に導き，屋上の高置水槽へ揚水後，各棟へ重力方式にて供給を行っている。

排水設備

建物内は汚水，雑排水，実験洗浄排水，雨水の4系統分流式。屋外は生活排水，雨水の2系統分流式とするが，実験洗浄排水は，中和処理後生活排水系統に合流させる。

ガス設備

敷地外周北側道路の埋設されている筑波学園ガス(株)低圧ガス管100（都市ガス13A，11,000kcal/m³）により引き込み，各棟へ供給する。

空気調和設備

冷暖房を実施する部分は，空冷ヒートポンプ方式個別空調にて対応し，暖房のみを行う部分は温水暖房方式で，熱源は運転に際し資格を要しない重油焚き真空式温水ボイラー（全自動運転可能型）とし，各棟へ供給している。

ただし，学生寄宿舍は，途中の配管のロスを考慮し，暖房給湯兼用ボイラー（全自動運転型）を別に設置し，供給している。

防災設備

防災設備は関係法規に基づき整備しているが，消防庁から昭和62年9月1日付「社会福祉施設等における防火安全対策について（通知）」が出されていることを踏まえ，細部にわたりきめ細かい防災対策を行い，防災センター内に主受信機を設置し，中央監視設備と連動して監視・制御を行う。

防犯設備

学生寄宿舍のユニットの玄関ドアのオートロックという，防犯対策を図っている。

情報システム

情報システムとしては，幹線部（各棟のフロアスイッチまで）の伝送媒体は光ファイバーケーブルで，支線部（フロアスイッチから端末まで）については，100MbpsのUTPケーブルで整備している。ただし，学生寄宿舍A～C及び共用棟については，支線部1（ギガスイッチからスイッチングハブまで）は，1GbpsのUTPケーブルで，支線部2（スイッチングハブから情報コンセントまで）は，100MbpsのUTPケーブルで整備している。

廃棄物処理

学内から発生する多種多様な廃棄物を適切に処理し，キャンパス全体として処理システムを検討する。廃棄物の適切な処理を行うため，市の条例や関係法令等を遵守するとともに，必要に応じ，安全，健康，資源の有効利用の観点から所要の設備を設けることとする。

3. 将来構想

今後、将来に向けたキャンパス整備構想は、短期大学時のキャンパス整備の考え方を基に、新たな4年制大学化に伴う大学設置の趣旨・目的および教育理念を実現することを目標とする。

大学設置の趣旨・目的

- 1) 我が国における聴覚・視覚障害者の中核的な高等教育・研究機関として
- 2) 聴覚・視覚障害に適応した教育研究を実施する先導的、先端的、実験的な教育・研究機関として
- 3) 国内外にわたる聴覚・視覚障害者に関する情報発信の拠点として
障害者が自立し、社会参画・貢献できる社会システムづくりの一端を担い、豊かな社会を実現する。

教育理念

聴覚・視覚障害者の社会的自立・参画・貢献の促進を目標に、障害に適応し、率先して社会に貢献できる専門職業人を養成する。

- 1) 人間形成に資する幅広い教養を習得させ、社会性の涵養を図る。
- 2) 障害を理解・克服し、自ら社会に適合できる自主性、柔軟性の育成を図る。
- 3) 情報化社会に対応できる情報リテラシーと、国際化に対応できる語学力や、学生生活・社会生活を円滑に行うための、コミュニケーション能力の育成を図る。
- 4) 専門技術の習得に必要な専門基礎教育及び専門教育を充実し、社会が求めている専門的、応用的職業能力及び指導能力の育成を図る。

このことから

学生生活環境整備への対応、教育内容の高度専門化への対応、新たな教育研究・支援ニーズへの対応のために下記の事項について計画を進める。

1. 4年制大学化に伴う聴覚・視覚障害学生のための寄宿舍の整備

学生の通学時や日常生活における安全面、自主性をもった生活・学習環境、社会性・人間形成の指導環境を確保するために、平成21年4月入居を目途に大学敷地内に学生寄宿舍を拡充整備する。学生へのアンケート調査、教職員からの意見収集、既存施設の点検評価などを行い基本計画立案、施設整備を行う。

2. 大学院設置に伴う施設整備

4年制大学化に伴い、障害者高等教育に関わる専門分野の教育研究を高めるために平成22年4月開設を目途に大学院の内容を検討している。

対象専門分野、研究内容、学生定員、などに対応できる研究室などの施設整備計画を行う。

3. 理療科教員養成課程設置に伴う施設整備

保健科学部において、新たに理療科教員養成課程の設置に向けた検討が行われている。

開設時期に合わせ、教科内容、学生定員、講義室、実習実験室などに対応できる施設整備計画を行う。

4．高度専門化に伴う専門教育研究の施設整備

近年の科学技術・医療技術の高度専門化，産業技術の高度化，に伴い各学部の専門領域における研究の深耕が必要である。また，4年制大学化に伴い社会の要請に応える障害者のための専門教育内容の高度化も必要である。

これらのために産業技術学部，保健科学部それぞれの特性に適応した研究実験環境，教育環境の拡充整備を進める。

5．高度専門化に伴う障害者高等教育研究支援の施設整備

近年のノーマライゼーション社会の進展，障害者支援や障害者高等教育研究における高度専門化と国内外との連携交流の活発化などに伴い，障害補償システム開発研究・障害者能力開発研究・障害者基礎教育研究・学外支援交流のための施設，学外に開かれたビジター・ラーニング施設など，新たな教育研究・支援ニーズに対応した障害者高等教育研究支援センターの整備を進める。

6．障害者の移動等の円滑化・ユニバーサル化を取り入れた環境整備

聴覚・視覚障害学生のためのバリアフリー環境整備が開学時から十分な改善対応がなされていないため老朽化・陳腐化などがあり，社会のユニバーサル環境の進展にそぐわなくなっている。既存施設の点検評価および改善計画を立案し，障害者の移動等の円滑化や情報保障，サイン計画，などユニバーサルデザインに配慮した環境の整備を進める。

7．キャンパス内の防犯対策

4年制大学化の教育研究・施設運営の実施に併せて，キャンパス内の防犯，災害時避難対策など既存施設の点検評価を行い，施設の改善を検討する。

8．グレートキャンパス構想

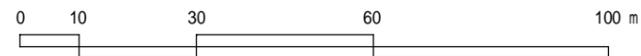
大学内キャンパスの他に，学外に教育環境として活用できる場を拡げ，社会との連携を深められるような方策を検討する。具体例として本学の竹園地区職員宿舎の宿舎機能以外の用途企画，つくば市の施設などの教育環境としての活用などを検討する。

上記の施設整備計画を進める上で，既存施設の利用状況の点検評価を行い，既存施設の改善計画・有効活用の対応策も併せて検討する。

現況配置図



国立科学博物館 筑波実験植物園
(住居地域、2種文教)



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ペイ率	容積率	学部等名	団地番号	団地名	所在地名	学校名	作成年度
44,087 m ²	7,031 m ²	16,230 m ²	16.0 %	37.0 %	産業技術学部	001	天久保	茨城県つくば市天久保4丁目3-15	筑波技術大学	平成17年

現況配置図



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	学部等名	団地番号	団地名	所在地名	学校名	作成年度
39,614 m ²	7,073 m ²	15,019 m ²	18.0 %	38.0 %	保健科学部	002	春日	茨城県つくば市春日4丁目12-7	筑波技術大学	平成17年

